

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

高知大学農林海洋科学部では、令和5年度に「一次産業DX」と「6次産業化」をキーワードとする教育組織改革を実施し、農林資源科学科及び海洋資源科学科の2学科体制へと再編を行ったところである。この背景としては、高知県が申請者となり、産学官金連携の下、地方大学・地域産業創生交付金事業として推進してきている「IoP（Internet of Plants）が導くNext次世代型施設園芸農業への進化プロジェクト」（以下、「IoPプロジェクト」という。）の成果・実績を基に、高知県の基幹産業である一次産業のさらなる高度化・発展に資する人材の育成に向けて改革を実施したところである。

特に、施設園芸を含む農業を教育研究の対象とする学部は、高知県内の高等教育機関では、本学農林海洋科学部のみである。令和5年度に設置された農林資源科学科では、高知県における産業界・教育界等のニーズを踏まえ、施設園芸農業の高度化等の実現に資する「一次産業DX」の教育課程の編成や、「高知県から学生を受け入れ、高知県に人材を輩出する」ための「高知県地域枠の設定（募集人員：15人）」や「3年次編入学定員の新設（入学定員：2人）」等を実施してきたところである。

また、今回、IoPプロジェクトの推進や、地域の一次産業における課題解決に向け、さらには、地方創生を志す学生を「地域や全国から呼び込み、高知県に輩出・定着させる」流入機能を強化するための「地域志向枠」を設けるべく、「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」に申請を行い、「5人増」の採択を受けたところである。

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

令和5年度にIoPプロジェクトの成果を反映し、「一次産業DX」として教育組織改革を実施した際に、農林資源科学科135人の入学定員に「高知県地域枠の設定（募集人員：15人）」を設けて、IoPプロジェクトがターゲットとしている施設園芸等の農業分野の振興に向けた人材育成のための枠を設けたところである。

加えて、さらなる施設園芸等の農業分野の振興に向けた人材育成に向け、「地域や全国から呼び込み、高知県に輩出・定着させる」ための枠である「地域志向枠」を、さらに農林資源科学科135人の内数として設けることは、農業分野以外の人材育成（林業・畜産業・農業土木等・自然環境学・農芸化学等の分野）をさらに縮小することとなる。

このことは、農業分野以外の産業界における人材養成のニーズへの対応が手薄になることを意味するため、今回、「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」の審査結果に基づいて、入学定員「5人増」に向けて、設置計画を申請するものである。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

1. 教育課程の変更内容

今回の収容定員増に向けた設置計画立案において、令和5年度に実施した「一次産業DX」と「6次産業化」をキーワードとする教育課程全体には、大きな変更はない。ただし、2. で後述する「地域や全国から呼び込み、高知県に輩出・定着させる」との「地域志向枠」の趣旨を実現するため、「地方創生推進士（農学版）」の履修体系で、履修指導を行うにあたり、「6次産業化」関係科目の充実や「6次産業化インターンシップ」を追加した他、「6次産業化」とのキーワードを同じくする地域協働学部との連携科目についても、教育課程に追加する。【資料1：教育課程等の概要】

2. 教育方法及び履修指導方法の変更内容

今回の入学定員増5人を契機として、「地域志向枠」として15人の入学枠を設置する。この「地域志向枠」の学生に対しては、「地方創生推進士（農学版）」による履修体系での受講を義務付ける。

「地方創生推進士」とは、COC+事業（平成30年度採択）を契機に設けられた認証制度であり、制度発足当初から現在に至るまで、地域協働学部を中心として全学で274人の認証を行ってきている。その認証に至る履修体系は、次のとおりであり、正課と準正課の組み合わせ等により、1st Phase（地域を知る）6単位、2nd Phase（地域をもっと知る）4単位、3rd Phase（地域と会う）4単位、4th Phase（地域を体験する）4単位と、5th Phase（地域と協働する）の計18単位以上の修得により、認証を受けられる制度である。



この「地方創生推進士」の体系に合わせて、農林海洋科学部農林資源科学科では、「地方創生推進士（農学版）カリキュラムマップ」の履修体系を編成し、当該カリキュラムマップに基づいて、履修指導を実施する。【資料2：地方創生推進士（農学版）カリキュラムマップ】

3. 教員組織の変更内容

令和5年度に設置された農林海洋科学部農林資源科学科は、教授19人、准教授11人、講師6人、助教2人の38人体制でスタートした。転出による後任補充中の人事や教育課程充実に向けて実施中の採用人事等があるため、申請時点では、教授18人、准教授12人、講師5人、助教2人となっているが、入学定員が増員される令和7年度の教員配置は、教授18人、准教授12人、講師6人、助教5人の41人体制となる予定である。令和5年度当初から基幹教員を3人増員する予定であり、S/T比としても下記の通り教育体制が充実される。

	令和5年度計画	令和7年度予定 (入学定員5人増)
入学定員	3.6 (学生135/教員38)	3.4 (学生140/教員41)
収容定員	14.3 (学生544/教員38)	13.8 (学生564/教員41)

また、完成年度の令和10年までに、教授2人の定年退職が予定されているものの、後任の基幹教員を補充することから、教育体制は維持される。

4. 大学全体の施設・設備の変更内容

(1) 校地、運動場の整備計画

本学部の教育・研究を支える校地は、本学の物部キャンパスである。物部キャンパスは、364,255 m²の敷地面積を有し、学術情報基盤図書館物部分館、農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター、総合研究センター遺伝子実験施設、海洋コア総合研究センター等の教育研究施設が存在し、本学部の教育研究を十分に担保できる体制が整っている。物部キャンパスにおいては、運動場(1,198 m²)、体育館(1,077 m²)を有し、このほか、テニスコート等が整備されている。学生が休息するスペースは、福利厚生施設内に多目的ルーム、食堂、売店等が備えられており、入学定員5人の増員には十分に対応可能である。

また、本学部の1年次の学生の教育（主に共通教育を実施する。）に使用する校地は、本学の朝倉キャンパスであり、同キャンパスは、159,518 m²の敷地面積を有する本学における中心的なキャンパスである。附属図書館、保健管理センター、食堂等の学生の厚生施設が充実しているほか、運動場(35,569 m²)、体育館(1,543 m²)を有

し、このほか、柔剣道場、弓道場、トレーニングルーム、テニスコート、プール等が整備されており、1年次の共通教育の実施に必要な設備は整っている。

(2) 校舎等施設の整備計画

農林海洋科学部では、物部キャンパス内に以下の通り、大講義室、専門科目を開講するための小講義室、特別研究や実験・実習科目等を開講するための実験室等があり、入学定員5人の増員には十分に対応可能である。

- 講義室 13室 (240名規模の講義室1室、110名規模の講義室1室を含む。)
- 演習室 8室
- 実験室 160室

また、1年次の教育(共通教育)を実施する朝倉キャンパスでは、共通教育実施のため、共通教育1号館～3号館(7,326㎡)を中心に、以下の施設・設備がある。

- 講義室 24室
- 演習室 1室
- 実験室 1室

エ. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

農林海洋科学部農林資源科学科の教育は、高知大学朝倉キャンパス(高知市曙町2丁目5番1号)及び物部キャンパス(南国市物部乙200)の2か所のキャンパスにおいて、実施する。朝倉キャンパスでは、1年次における共通教育段階(一部専門科目を含む。)での教育を実施し、2年次以降の学部専門教育は物部キャンパスで実施する。そのため、1年次140名は朝倉キャンパスに、2年次以降424名(3年次編入学含む。)は物部キャンパスに所属する。

① 専任教員の配置状況

農林海洋科学部の専任教員の研究室は、物部キャンパスに所在するため、朝倉キャンパスに専任教員は配置されない。ただし、朝倉キャンパスで開講される共通教育科目は、共通教育主管(朝倉キャンパスの教員)の下、全6学部が連携し全学出動態勢で展開される。人文分野、社会分野、自然分野、医療・スポーツ分野等の分科会が中心となり、授業題目の配置・編成等を担うため、授業実施に係る責任体制は整っている。また、1年次に配置される専門科目については、担当教員が朝倉キャンパスに移動し、講義等を行うため、授業実施に支障はない。

② 学生の負担への配慮

1年次に物部キャンパスで実施される科目は、「課題探求実践セミナー(フィールドサイエンス実習)」のみであり、学生が同科目を受講するに当たっては、キャンパス間の移動(キャンパス間約25km・所要時間50分)のため、借り上げバス等を手配することとしており、学生の負担は生じない。また、同科目は、集中形式で実施されるため、時間割上も問題も生じない。

また、高等学校の学びから大学教育への効果的な接続については、共通教育科目初年次（導入）科目の「大学基礎論」、「学問基礎論」を通じて担保する。学部の特徴に応じて実施するため、これらの科目は専任教員が担当する。専門教育に繋がる共通教育科目教養科目自然分野科目のうち、農学に係る授業題目についても、本学部の専任教員が担当する。

履修指導・修学支援に関しては、各学期に実施する学務担当教員及びアドバイザー教員による面談等を通じて、実施する。面談等の実施に当たっては、オンライン・対面を併用することにより、学生の状況に応じた効果的な方法での実施と学生・教員双方の負担軽減のバランスを取る。

③ 教員の負担への配慮

「課題探求実践セミナー（フィールドサイエンス実習）」以外の1年次配当科目については、担当教員が物部キャンパスから朝倉キャンパスに移動して授業を行う。1年次配当科目のうち、「大学基礎論」、「学問基礎論」は全専任教員の中で教員負担も配慮しながら担当を分担しているほか、1年次配当科目の多くがオムニバス科目であり、キャンパス間移動に伴う負担は分散している。また、教員のキャンパス間移動の時間を考慮した時間割を編成している。以上のように、キャンパス間移動に伴う負担の軽減が図られている。

④ 施設設備等の配慮

共通教育実施のため、共通教育1号館～3号館（7,326 m²）を中心に、以下の施設・設備を確保している。同施設では、一部朝倉キャンパスの他学部の専門科目の講義等でも使用されているものの、共通教育科目の実施が優先されるため、農林海洋科学部1年生が受講する科目に支障が生じることはない。

- 講義室 24室
- 演習室 1室
- 実験室 1室

教育課程等の概要																		
(農林海洋科学部 農林資源科学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 (助手を除く) の教員		
共通教育科目	導入科目群	大学での学びかた	1前	○	2			○			18	12	5	2		28		
		学問基礎論	1後	○	2			○			18	12	5	2		28		
		課題探求実践セミナー (フィールドサイエンス実習)	1通	○	2				○		18	12	5	2		31		
		小計 (3科目)			6	0	0		○		18	12	5	2		31		
	国際コミュニケーション科目	基軸英語	1前・後		1				○							2	単位数は1題目当たりの単位数。4題目開講。 単位数は1題目当たりの単位数。16題目開講。	
		国際英語	1後			2			○							3		
		初修外国語、日本語	1前			2			○		1					9		
		小計 (3科目)			1	4			○		1					6		
	イエンジニアリング・データサイエンス科目	数理・データサイエンス・AI科目	1前・後	○	2				○		1		1			16	単位数は1題目当たりの単位数。2題目開講。	
		小計 (1科目)			2				○		1		1			16		
	教養科目群	生きる力を育む科目	生活	1前・後			2		○								3	単位数は1題目当たりの単位数。一部1単位の題目あり。49題目開講。
			医療・健康・スポーツ	1前・後			2		○								6	
			キャリア形成	1前・後			2			○			1				4	
			芸術	1前・後			2			○							3	
		小計 (4科目)				8			○			1				15		
視野を広げる科目		人文・社会科学系領域				2			○		1		1			10		
		自然科学系領域	1前・後			2			○			1	1			5		
	複合領域				2			○		1					5			
小計 (3科目)	1前・後			6			○		2	1	1			19				
学部専門科目	基盤科目	生物学概論	1前			2		○			4	3					オムニバス	
		化学概論	1後			2		○			4	2				1	オムニバス	
		地球科学概論	2前			2		○								4	オムニバス	
		物理学概論	2前			2		○			2		1				オムニバス・共同 (一部)	
		物理学基礎実験	2前			1								○		2	共同集中	
		地学基礎実験	2前			1								○		3	オムニバス集中	
		生物学基礎実験	2前			1					2	2	2				オムニバス集中	
		基礎化学実験	2前			2								○		2	オムニバス・共同 (一部)集中	
		化学基礎実験	2後			1					9	3	1	1		1	オムニバス共同集中	
		小計 (9科目)				0	14	0		○		15	6	3	1		9	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
D S ・ D X 科目	一次産業DX概論	1前	○	2			○					1	2		1	オムニバス	
	大学数学入門	1後			2		○					1	1		1	オムニバス	
	基礎統計学	2前	○	2			○			5	3	1	3			オムニバス・共同 (一部)	
	スマート農業 I	1後	○	2			○			4	5		1		3	オムニバス	
	スマート農業 II	2前	○	2			○			5		1			1	オムニバス	
	AI・データサイエンスの基礎	2後			2		○				1						
	小計 (5科目)	—	—	8	4	0	—			11	8	1	3		5		
	卒 論 科 目	応用DS・DX演習	4前	○	1				○			18	12	6	5		1
		卒業論文演習	4後	○	1				○			18	12	6	5		1
		卒業論文	4通	○	6				○			18	12	6	5		1
		小計 (5科目)	—	—	8	0	0	—			18	12	6	5		1	
	学 科 共 通 科 目	暖 地 農 学 科 目	野菜園芸学	2前		2		○					1				
			農業気象学	2前		2		○			1						
園芸管理学			2後		2		○					1					
果樹園芸学			2後		2		○				1						
花卉園芸学			2後		2		○				1						
施設生産学概論			2後		2		○			2	1						オムニバス
施設生産システム学			3前		2		○				1						
植物育種学			2後		2		○					1					
食料生産プロセス学			3後		2		○			1							
動物生理学			3前		2		○							1			
小計 (10科目)		—	—	0	20	0	—			2	3	2	1				
環 境 保 全 科 目		化学生態学	3前		2		○				1						
		動物生態学	3前		2		○				1						
	保全生態学	3前		2		○					1						
	森林生態・造林学	2前		2		○				1			1			オムニバス	
	森林資源循環利用学	2前		2		○				1							
	地域環境デザイン学	3後		3		○			1	2	1					オムニバス	
	エンジニアリング・マネジメント	3後		2		○						1					
小計 (科目)	—	—	0	17	0	—			6	3	1	1		1		共同 (一部)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
農芸化学科目	土壌学	2前			2		○			1								
	植物資源科学	2前			2		○			1								
	植物栄養学	2後			2		○			1								
	植物生育環境学	3前			2		○				1							
	土壌環境科学	3前			2		○			1								
	食品化学	2前			2		○			1								
	農産物利用学	2後			2		○			1								
	食品分析学	3前			2		○			1							集中	
	小計 (8科目)	—	—	0	16	0	—	—	—	5	1							
	A I プログラミング科目	データサイエンスの微分・積分	2前			2		○			1			1				オムニバス
		データサイエンスの線形代数	2後			2		○			1							
		農工情報共創学	2後			2		○							1			オムニバス
		農科のためのA I プログラミング	3前			2		○			2			1				
		小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	2			1		1		
	発展科目	地理空間情報学・演習	3前			3		○						1				※演習
植物防疫オミクス解析学		3前			2		○						1					
IoP総論		3後			1		○			1								
動物生体情報学		3後			2		○						1				集中	
森林情報モニタリング論		3後			2		○						1					
小計 (5科目)		—	—	0	10	0	—	—	—	1		2	2					
共通科目	暖地農学概論	2前			2		○			1	4	2	1				オムニバス	
	植物工場	3前			2		○			1	1						共同	
	現代応用生物科学	3後			1		○			1								
	小計 (3科目)	—	—	0	5	0	—	—	—	3	4	2	1					
経営・マーケティング科目	農業経営革新論	3前			2		○						1				7科目中1科目必修	
	農企業マーケティング論	3前			2		○						1					
	知的財産概論	3前			2		○								1			
	地域農業最適化論	3後			2		○						1					
	フードビジネス制度論	3後			2		○						1					
	農業振興論	2前			2		○								1			
	六次産業化論	2後			2		○								1			
	小計 (7科目)	—	—	0	14	0	—	—	—				2		2			
キャリア形成科目	インターンシップ (技術・技能)	2通			1				○	2							集中	
	インターンシップ (実践力)	2通			1				○	2							集中	
	六次産業化インターンシップ	3後			2				○	2								
	キャリア形成論	3後			1		○			1					1			
	小計 (4科目)	—	—	1	4	0	—	—	—	2					1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
フィールド科学コース	共通科目																
	暖地農学基礎実習	2前			2				○	3	4	3	2		2	共同	
	環境保全基礎実習	2前			2				○	6	5	2	2			オムニバス・共同 (一部)	
	中山間地域実習	2通			2				○		1					集中	
	自然環境学	2前			2		○			6	4					オムニバス	
	外国書講読Ⅰ	3前			1			○		9	9	5	4				
	外国書講読Ⅱ	3後			1			○		9	9	5	4				
	フィールド科学演習	3後			1			○		8	4	2	1				
	フィールド科学実習	3後			1				○	1	4	4	2				
	小計 (8科目)	—	—	—	0	12	0	—	—	9	9	5	4		2		
	暖地農学科目																
	植物遺伝学	2前				2		○					1				オムニバス
農政学	2前				2		○				1	1				オムニバス	
熱帯農学概論	2前				2		○		5	2	3			1		オムニバス	
動物生産学概論	2後				2		○				1						
作物学	2後				2		○		1								
農業経営学	2後				2		○					1					
暖地フィールド科学実習Ⅰ	2後				2			○	3	4	3	2		2			
暖地フィールド科学実習Ⅱ	3前				2			○	3	4	3	2					
食品流通論	3前				2		○					1					
家畜管理学	3前				2		○					1					
環境保全農業論	3後				2		○		3	4	2	1				オムニバス	
小計 (11科目)	—	—	—	0	22	0	—	—	7	5	4	2		3			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
環境保全科目	森林生産技術実習Ⅰ	2通			1				○	1			1			共同集中
	森林マネジメント論	2前			2		○					1				
	農山村資源利用論	2前			2		○				1					オムニバス
	水資源学	2前			2		○			1	2					オムニバス
	応用力学・演習Ⅰ	2前			3		○			1	1	1				※演習
	科学・技術の倫理	2前			2		○			1	1					オムニバス
	魚類学概論	2前			2		○							1		
	昆虫学	2後			2		○			1	1					オムニバス
	森林マネジメント演習	2後			1			○				1				
	自然環境学実習	2後			1				○	3	2		1			共同集中
	応用力学・演習Ⅱ	2後			3		○			1	1	1				共同※演習
	環境水質学・実験	3前			3		○				1					※実験
	木質成分の理化学	2後			2		○			1						
	自然環境学実験	3前			1				○	3	2		1			共同集中
	農薬化学	3前			2		○			1						集中
	樹木学実習	3前			2				○	3	1		1			共同集中
	森林土壌学	3前			2		○			1						
	木材利用学実験	3前			2				○	1			1			オムニバス
	森林経済学	3前			2		○						1			
	地域協働インターンシップ	3前			1				○	1						集中
	水理学・実験	3前			3		○				1					※実験
材料工学・実験	2後			3		○			1						※実験	
森林保護学	3後			2		○			1							
森林環境政策学	3後			2		○					1					
測量学・実習	3通			3		○			1			1			オムニバス・共同（一部）	
森林生産技術実習Ⅱ	3通			1				○	1			1			共同集中	
小計（26 科目）		—	—	0	52	0			—	6	5	2	2		1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)
農芸化学コース	農芸化学概論	1前			2		○			9	3	1	1		1	オムニバス
	基礎分析化学	2前			2		○				1					
	基礎有機化学	2前			2		○			1						
	生物化学	2前			2		○				1					
	植物感染病学	2前			2		○			1						
	農芸化学基礎実験Ⅰ	2後			2				○	3	1					集中
	農芸化学基礎実験Ⅱ	2後			2				○	4		1				集中
	農芸化学基礎実験Ⅲ	3前			2				○	1	1					集中
	農芸化学基礎実験Ⅳ	3前			2				○	1	1		1		1	集中
	基礎外書講読Ⅰ	2後			1				○	9	3	1	1		1	集中
	基礎外書講読Ⅱ	3前			1				○	9	3	1	1		1	集中
	農芸化学応用実験Ⅰ	3後			1				○	9	3	1	1		1	集中
	農芸化学応用実験Ⅱ	4前			1				○	9	3	1	1		1	集中
	微生物学入門	2前				2		○							1	
	動物生産・繁殖学	2前				2		○			1					
	無機化学	2前				2		○			1					
	植物細菌学	2後				2		○			1					
	動物発生工学	2後				2		○			1					
	食品衛生学	3前				2		○				1				
	植物微生物相互作用論	3前				2		○			1					
	土壌微生物生態学	3後				2		○			1					
	生物環境分析学	4前				2		○			1					
	有機化学	2後				2		○			1					
	応用微生物学	2後				2		○				1				
	代謝生化学	2後				2		○				1				
	栄養化学	3前				2		○			1					
	構造解析化学	3前				2		○			1					集中
	微生物遺伝子工学	3前				2		○							1	
	生物有機化学	3前				2		○							1	
	水産物利用学	3前				2		○							1	
	生体高分子化学	3後				2		○			1					
	生物機能利用学	3前				2		○					1			
	資源有機化学	2後				2		○					1			
	専門外書講読Ⅰ	3後			1				○		9	3	1	1	1	集中
	専門外書講読Ⅱ	4前			1				○		9	3	1	1	1	集中
小計 (35科目)		—	—	0	64	0		—		9	3	1	1		4	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助手を除く)
農 山 漁 村 地 域 連 携 教 育 プ ロ グ ラ ム	農山漁村地域実習Ⅰ	2通				2			○		1	2	1			
	農山漁村地域実習Ⅱ	2通				2			○		1	2	1			
	農山漁村地域実習Ⅲ	2通				1			○		1	2	1			
	農山漁村地域実習Ⅳ	2通				1			○		1	2	1			
	農山漁村地域社会論	2前				1	○				1	2	1			オムニバス
	小計（5科目）	—	—	0	0	7		—			1	2	1			
合計（162科目）		—	—	26	280	7		—		18	12	6	5		90	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
学位又は称号		学士（農学）		学位又は学科の分野			農学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
<p>【卒業要件】 共通教育科目38単位（うち初年次科目10単位は必修）、学部共通科目、学科共通科目及びコース別専門科目から86単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。</p> <p>【履修方法】 共通教育科目（38単位） ○初年次科目 14単位 「大学基礎論」「学問基礎論」「課題探求実践セミナー（フィールドサイエンス実習）」（各2単位）の3科目と「大学英语入門Ⅰ」「大学英语入門Ⅱ」「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」（各1単位）の4科目が必修 「数理・データサイエンス・AI科目」の授業題目から4単位選択必修 ○外国語科目 4単位 ○教養科目 20単位（うち自然科学分野科目の授業題目から6単位選択必修）</p> <p>専門科目（86単位） ○学部共通科目 <必修科目>（16単位） ・DS・DX科目（8単位） 「一次産業DX概論」「基礎統計学」「スマート農業Ⅰ」「スマート農業Ⅱ」 ・卒論科目（8単位） 「応用DS・DX演習」「卒業論文演習」「卒業論文」</p> <p>○学科共通科目（3単位） <必修科目>（1単位） 「キャリア形成論」 <選択必修科目>（2単位） 経営・マーケティング科目群より2単位以上を修得</p> <p>そのほか、コースごとに次のコース専門科目が必修または選択必修 ○フィールド科学コース <必修科目>（8単位） ・学部共通科目（2単位） 「生物学概論」 ・学科共通科目 共通科目（2単位） 「暖地農学概論」 ・フィールド科学コース科目（4単位） 「自然環境学」「外国書講読Ⅰ」「外国書講読Ⅱ」</p> <p><選択必修科目>（2単位） ・学部共通科目 「化学概論」「物理学概論」どちらか1つ選択</p> <p><選択科目>（57単位） フィールド科学コース科目「暖地農学分野」と「環境保全分野」から分野を1つ選択し以下のとおり修得する。 「暖地農学分野」 ・「暖地農学基礎実習」「暖地フィールド科学実習Ⅰ」を修得 ・学科共通科目「DS・DX科目 環境保全科目」及び「DS・DX科目 農芸化学科目」から5科目（10単位）以上を修得 ・学科共通科目「DS・DX科目 暖地農学科目」及び「DS・DX科目 発展科目」並びにフィールド科学コース科目「暖地農学科目」から28単位以上を修得 「環境保全分野」 ・「環境保全基礎実習」を修得 ・学科共通科目「DS・DX科目 暖地農学科目」及び「DS・DX科目 農芸化学科目」から5科目（10単位）を修得 ・学科共通科目「DS・DX科目 環境保全科目」及び「DS・DX科目 発展科目」並びにフィールド科学コース科目「環境保全科目」から実験・実習・演習科目5単位以上（講義と実験・実習・演習が一体化している科目を含む）を含む28単位以上を修得</p>							1 学年の学期区分							2 学期		
<p><必修科目>（8単位） ・学部共通科目（2単位） 「生物学概論」 ・学科共通科目 共通科目（2単位） 「暖地農学概論」 ・フィールド科学コース科目（4単位） 「自然環境学」「外国書講読Ⅰ」「外国書講読Ⅱ」</p> <p><選択必修科目>（2単位） ・学部共通科目 「化学概論」「物理学概論」どちらか1つ選択</p> <p><選択科目>（57単位） フィールド科学コース科目「暖地農学分野」と「環境保全分野」から分野を1つ選択し以下のとおり修得する。 「暖地農学分野」 ・「暖地農学基礎実習」「暖地フィールド科学実習Ⅰ」を修得 ・学科共通科目「DS・DX科目 環境保全科目」及び「DS・DX科目 農芸化学科目」から5科目（10単位）以上を修得 ・学科共通科目「DS・DX科目 暖地農学科目」及び「DS・DX科目 発展科目」並びにフィールド科学コース科目「暖地農学科目」から28単位以上を修得 「環境保全分野」 ・「環境保全基礎実習」を修得 ・学科共通科目「DS・DX科目 暖地農学科目」及び「DS・DX科目 農芸化学科目」から5科目（10単位）を修得 ・学科共通科目「DS・DX科目 環境保全科目」及び「DS・DX科目 発展科目」並びにフィールド科学コース科目「環境保全科目」から実験・実習・演習科目5単位以上（講義と実験・実習・演習が一体化している科目を含む）を含む28単位以上を修得</p>							1 学期の授業期間							15週		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
○農芸化学コース <必修科目> (28単位) ・学科共通科目 (4単位) 「土壌学」「食品化学」 ・農芸化学コース科目 (24単位) 「農芸化学概論」「基礎分析化学」「基礎有機化学」「生物化学」「植物感染病学」 「農芸化学基礎実験I」「農芸化学基礎実験II」「農芸化学基礎実験III」 「農芸化学基礎実験IV」「基礎外書講読I」「基礎外書講読II」「専門外書講読I」 「専門外書講読II」「農芸化学応用実験I」「農芸化学応用実験II」 <選択科目> (39単位) 学科共通科目DS・DX科目について、暖地農学分野、環境保全分野より5科目10単位以上を修得 要総修得単位数124単位 (履修科目の登録の上限：各学期22単位)							1 時限の授業の標準時間			90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

地方創生推進士(農学)カリキュラムマップ (R7年度農林資源科学科入学生)

※地方創生推進士(農学)について

高知県内の農山漁村地域が抱えている課題を理解し、データサイエンス(DS)とデジタルトランスフォーメーション(DX)を活用して課題解決の方策を考えることのできる「地方創生推進士」を育成する。

赤字…卒業のための必修科目、緑字…準正課科目(各2単位相当)

phase/必要単位数	目的	1年		2年		3年		4年		備考
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	
1st phase 地域を「知る」 6単位	地域の基本的な情報を学び理解するとともに、地域に対する興味関心を高めることを目的とする。	・地域フィールドワーク入門(1) ・地域活性化について学ぶ(2) ・高知の産業と地域活性化(2) ・フードサイエンスの世界(2) ・土佐の自然と農林業(2) ・高知の最先端農業IoT入門セミナー(2) ・データ農業をやってみようIoTサマースクール(2)	・ 学問基礎論(2) ・地域の農林資源と環境科学(2) ・ライフサイエンスの世界(2) ・次世代農業を感じてみよう!IoTスプリングスクール(1)							学問基礎論(2)のほか、4単位選択。
2nd phase 地域を「もっと知る」 4単位	地域の詳細な情報を学び、学生が地域で活動するための土台となる知識を習得することを目的とする。	・ 一次産業DX概論(2) ・蔬菜園芸学(2)	・ スマート農業Ⅰ(2) ・沿岸域防災学(2) ・海洋生物生理・生態学(2)	・ スマート農業Ⅱ(2) ・農山漁村地域社会論(1) ・農政学(2) ・暖地農学基礎実習(2) ・暖地農学概論(2) ・農山村資源利用論(2) ・農業気象学(2) ・植物感染病学(2) ・水産学概論(2) ・魚病学(2) ・農業振興論(2)	・果樹園芸学(2) ・自然環境学実習(1) ・森林マネジメント演習(1) ・植物栄養学(2) ・六次産業化論(2)	・農業経営革新論(2) ・農企業マーケティング論(2) ・植物生育環境学(2)	・地域農業最適化論(2) ・IoT総論(1) ・地域環境デザイン学(3) ・森林環境政策学(2) ・環境保全農業論(2) ・現代応用生物科学(1)			一次産業DX概論(2)、スマート農業Ⅰ(2)、スマート農業Ⅱ(2)、6単位必修とする。
3rd phase 地域と「会う」 4単位	グループワークやディスカッション等による地域企業、地域住民等との双方向のコミュニケーションの実践、その場を通じて地域の実情や考え方を学び理解することを目的とする。			・環境保全基礎実習(2)	・暖地フィールド科学実習Ⅱ(2)	・暖地フィールド科学実習Ⅱ(2) ・樹木学実習(2) ・海洋観測実習(1)	・ キャリア形成論(1) ・資源地質巡検(1)			課題探求実践セミナー(フィールドサイエンス実習)(2)、キャリア形成論(1)のほか1単位選択。
4th phase 地域を「体験する」 4単位	地域の実情に直接触れ、課題を認識するとともに課題解決のための方策を思考することを通じて、協働能力や地域活動能力の基礎を身に付けることを目的とする。本科目群により、地域における自らの存在価値の自覚と選択肢としての地域就職の動機付けを行う。					・地域協働インターンシップ(1)				4単位選択
5th phase 地域と「協働する」 任意	綿密な指導のもとで行われる長期の実習を通じて、地域で働くための心構えやスキルを身に付け、協働能力や地域活動能力を向上させることを目的とする。	・ベーシック国内サービスマーケティング(4) ・アドバンスド国内サービスマーケティング(4)	・ベーシック海外サービスマーケティング(4) ・アドバンスド海外サービスマーケティング(4)							必修ではないが、履修すれば認定審査の際に考慮される。

・各学部等が開講する地方創生推進士育成科目の中から、農学関係の共通教育科目・専門科目を抽出して、「地方創生推進士(農学)プログラム」を構成している。